

# 漁業経済学会 短 信

大会シンポジウムのお知らせ

## 「水産物消費をめぐる現代の課題」

水産物消費の変化と末端流通の対応—消費と流通・生産・貿易の相互規定—

多屋勝雄

過去の漁業経済学会のシンポジウムにおいて流通・消費問題は幾たびか取り上げられてきた。例えば'89年に日本漁業の国際化と流通・消費構造の変化、'95年に水産物市場の変貌と産地対応、が取り上げられているし、'96年には魚類養殖の経済・経営問題においても流通問題は重要な論点の一つであった。それぞれ国際化や産地市場問題、魚類養殖業との関連で議論されて、一定の成果が上げられてきた。

今回も流通・消費問題は早くから時宜を得たシンポ課題として取り上げられてきたが、コーディネーター選びに難航し、課題設定が遅れ気味となっている。しかしこれまで正面から取りあげられてはこなかった「消費」に重点

を置いて、末端流通問題を議論すべきではないか、という結論に落ち着いた。そのため今回のシンポは学会員メンバーが報告するより、主に学会外の識者に現代の流通・消費の変貌を講演いただき、議論を深める事になった。

'90年代前半までの水産物流通の変化は、末端流通が特に伝統的鮮魚小売店に代わってスーパーマーケットやコンビニエンスストアが台頭し、この末端流通での変化が消費を規定し、さらに産地流通を規定するといった、いわば川下からの流通変化が基軸となっていた。

当時の変革は、量販店が水産物流通のスケールメリットの追求と流通コストの削減のために流通を合理化すると

いう形で推進されてきた。このため水産物の販売においても価格競争が主たる変化軸であった。この時代をリードしてきたスーパーの戦略は、大量仕入れ、大量販売、近代的物流を行い、価格を安くする「チェーンオペレーションシステム」が中心であった。GMSもディスカウントストアも、主要品の仕入れは本部で一元的に行い、全国で一年中同じ商品が売られた。このような効率主義が限度まで進んだ結果、消費者の商品品質や食品の安全性に対するニーズとのずれが広がってきた。

また若者、単身世帯、高齢者世帯の増加などライフスタイルの大きな変化とともに、生活スタイルも多様化しダイナミックに変化してきている。それらの変化した消費者ニーズに対応するため、流通・小売りもまた変化し模索しているのである。

例えば外食産業では「家庭に変わる満足のいく食事の提供」や、量販店ではシェフの作った食品、レストラン並の味を強調した調理済み食品を豊富に揃え「15分でおいしい家庭の食事」を提案するなど品質を軸にした競争が展開されているのである。水産物でも近年ますます増大する刺身商材の増加、あるいは多様な「生鮮魚」の再評価が行われている。デパートでも量販店も食品売場が客寄せのポイントである以上、変化している消費ニーズを探らなければならないのである。

バブル経済が崩壊し、不良債権によ

る金融機関をはじめ産業界の淘汰・再編成と長い不況が始まったこの時代、水産物消費が消費地流通をどのように規定しているのか、さらに産地と消費地の流通、消費の相互規定がどのように進行しているのか、なにがイニシアチブを持って再編成が進んでいるのか明らかにするのがこのシンポジウムの目的である。

さらに、今回のシンポではどの程度踏み込めるか判らないが、水産物の消費・流通の変化は、上に述べた市場の再編成と同時に、大量消費と流通のグローバル化や、効率化、太いパイプ化に伴って、食品の安全性など外部不経済の問題を惹起させている。水産物流通が自由な市場原理のもとにグローバル化・複雑化してきた結果、大量消費・流通社会の問題として、

①輸入による相手国の環境破壊。外国での非持続型（収奪型）漁業や養殖の展開

②高度な水産物消費がエネルギー資源を大量に消費する問題

③国内の資源利用の不適切

④海洋汚染による魚介類の化学物質による汚染や生産流通過程での細菌汚染など食品の安全性

が問題として浮かびあがってきている。流通・消費システムがこれらの問題にどのように関わられるのかが問われている。



## 在京理事会報告

### ◆ 1997 年度第 1 回在京理事会

日時：1997 年 7 月 19 日

報告：

#### ① 96 年度大会経過報告

97 年 5 月に東水大で開催された大会への参加者は約 90 名、懇親会参加者は 65 名となった。

議題：

#### ① 入会希望者の承認

除本理史(一橋大大学院)の入会を承認

#### ② 次期大会シンポジウムテーマについて

沿岸漁業経営の存続条件、漁場利用制度の再検討、水産政策論、TAC 制度の検討(2)、環境と漁業、水産物消費(バブル期以降の)などが案として提案され議論したが結論が得られず、再度 9 月に臨時の在京理事会を開催することとした。

### ◆ 1997 年度臨時在京理事会

日時：1997 年 9 月 12 日

議題：

- ① 第 17 期(1997 年 10 月～2000 年 10 月)水産学研連委員として、第 16 期に引き続き小野征一郎氏(東水大)を再選することとした。  
…その後、小野氏はすでに 3 期 9 年間委員をつとめていることが分かり、小野氏に代わり中居裕氏

(東水大)を選出した。

- ② 平成 10 年度日本農学会評議員として、慣例に従い代表理事である小野征一郎氏(東水大)を選出した。

- ③ 平成 10 年度日本農学会運営委員として、慣例に従い学会総務担当の馬場治氏(東水大)を選出した。

- ④ 平成 10 年度日本農学賞候補論文の推薦を短信を通じて学会員に呼びかけることとした。

…10 月末締め切りで呼びかけた結果、候補論文の推薦はなく、「候補論文なし」と日本農学会に通知した。

- ⑤ 次期大会シンポジウムテーマについて

沿岸漁業経営問題、消費問題、のり養殖業問題の 3 つのテーマが最終的に候補としてあげられ検討したが、最終結論は得られなかった。

### ◆ 1997 年度第 2 回在京理事会

日時：1997 年 12 月 18 日

議題：

- ① 文部省、学術会議、他学会への働きかけについて  
科研費申請分野である水産学一般のキーワードとして、新たに「資源管理」の追加を働きかける方策を検討した(働きかけ自体について)

ては、97 年 5 月の全国理事会で承認済み)。その方策としては、

- 1) 水産学研連で議論してもらう
- 2) 水産学会に協力依頼をする
- 3) 水産学研連の全学会に文書を送付する
- 4) 地域漁業学会、北日本漁業経済学会にも協力依頼する、などである。

②学協会著作権協議会への複写権の委託について

契約に際して、学会誌編集面での新たな対応が必要とされる可能性があり、その点を協議会に問い合わせしてから再度検討することとする。また、複写権の委託に際しては、論文の著作権が学会に帰属していることが前提となるが、当学会では著作権の帰属については不明確なままで今日に至っており、他学会の状況を調査した上で今後検討する必要がある。

## 事務局からのお知らせ

### ◆次期の大会とシンポジウムについて

次期の漁業経済学会第 45 回大会は、先の大会(1997 年 5 月)の総会ですでお知らせしましたように、千葉県浦安市の明海大学で開催することになりました。千葉県とはいえ、東京駅から京葉線で約 20 分という便利な地であり、宿泊に関しても通常の上京時と同様の宿が利用できます。日時は、1998 年 5 月 29 日(金)～30 日(土)となりました。従来からありました金・土曜日開催への希望を検討した結果、今回は会場確保もでき、金・土曜日開催を実現できることとなりました。開催に当たっては、明海大学の高山隆三、山下東子の両氏にいろいろとお世話になることとなります。

シンポジウムテーマについては在京理事会の報告にもありましたように、なかなか最終結論が得られず、数度の会合を経てようやくテーマを決定する

ことができました。テーマは「水産物消費をめぐる現代の課題」(仮題)です。コーディネーターには多屋勝雄(東水大)、赤井雄次(水産経営技術研究所)、報告者には田坂行男(中央水研)、崎浦利之(中島水産)、高柳敏郎(東水大)、岩成和子(東水大)、の各氏です。現在この方向で開催に向けて内容の検討を進めておりますが、まだ流動的な部分もありますのでご承知おき下さい。

また、シンポテーマに関連して、水産物消費に関わる分野の一般報告も募集しております。皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

◆寄贈文献の紹介（順不同）

○「平成 8 年度 水源水域水質保全対策事業報告書」、平成 9 年 3 月、社団法人食品需給研究センター、146pp

○「平成 8 年度 食品産業動態景況調査」、平成 9 年 3 月、社団法人食品需給研究センター、168pp

○「南西海区水産研究所研究報告 第 30 号」、1997 年 3 月、水産庁南西区水産研究所、p.1-218

○「水産研究 (Journal of Taiwan Fisheries Research)」 Vol.3, No.1, June 1995、台湾省水産試験所、p.1-82

○「水産研究 (Journal of Taiwan Fisheries Research)」 Vol.3, No.2, December

1995、台湾省水産試験所、p.83-172

○真鍋篤行、「瀬戸内地方の網漁業技術史の諸問題(続)」(「瀬戸内海歴史民俗資料館紀要 X」別冊)、1997 年 3 月、169pp

○佐竹五六、「国際化時代の日本水産業と海外漁業協力」、成山堂書店、1997 年 10 月、288pp

○シンポジウム「豊かな根室の町づくりを考える市民のつどい」報告集、講演：「21 世紀に向かう根室水産業の課題と展望」、根室市職員労働組合連合会、1997 年 10 月、46pp

◆次々期シンポテーマについて

次々期（1999 年）大会シンポジウムのテーマにつきまして、会員皆様からの意見を伺いたいと考えております。ご意見やご希望がございましたら、事務局総務までお寄せください。

なお、これまでのシンポテーマは下記の通りです。

○過去のシンポジウムテーマ一覧

1997 年 TAC 制度と沖合漁業管理（第 44 回大会：東水大）

「TAC 制度の成立と背景」 篠原孝（農水省）

「諸国の TAC 管理;課題と可能性」  
黒沼吉弘（中央水研）

「東シナ海・黄海における 200 海里規制と漁業の再編動向」 片岡千賀之（長崎大）

「TAC 制度と沖合漁業の管理の現代的意義」 多屋勝雄（東水大）

コーディネーター：多屋勝雄

1996 年 魚類養殖の経済・経営問題  
（第 43 回大会：鹿児島）

「ブリ養殖における市場・流通問題」  
濱田英嗣（東水大）



「企業型養殖経営の展開条件」 小野  
征一郎(東水大)

「漁協依存型養殖経営の存立条件」  
長谷川健二(三重大)

「東町漁協の過去・現在・未来」 宇都  
時義(東町町長)

コーディネーター：島 秀典(鹿児島大)

1995 年 水産物市場の変貌と産地対  
応 (第 42 回大会：中央水研)

「水産物市場の変貌と産地条件」 中  
居裕(下関市立大)

「サバ需給構造の変化と産地対応」  
多屋勝雄(中央水研)

「サケ・マス需給構造の変化と産地対  
応」 佐野雅昭(東水大)

「養殖ブリ類の市場構造と産地編成」  
長谷川健二(三重大)

「マグロの需給構造の変化と生産構  
造の展望」 廣吉勝治(東水大)

コーディネーター：中居 裕

1994 年 漁場利用体制の国際的動向  
について (第 41 回大会：近畿大)

「漁場利用体制の国際的動向につい  
て」 長谷川彰

「公海漁場の現状と課題」 小野征一  
郎(東水大)

「EC の漁業管理の現状と課題」 榎  
彰徳(近畿大)

「東海・黄海の漁場利用と漁業管理」  
片岡千賀之(長崎大)

「個別割当に基づく漁業管理」 草川  
恒紀(東海大)

コーディネーター：長谷川彰

1993 年 漁村労働力の存在形態－過  
剰人口論の再検討－ (第 40 回大会  
：東水大)

「漁村労働力の存在形態に関する諸  
問題」 秋山博一

「自営漁業者の存在形態－階層格差  
とその根拠－」 加瀬和俊(東大)

「若年漁村就業者の漁業就業選択」  
島秀典(鹿児島大)

「漁民層分解と就業構造」 長谷川健  
二(三重大)

「都市近郊漁村での漁業就業形態」  
三輪千年(水大校)

コーディネーター：堀口健治(早稲田大)

1992 年 沿岸域の多面的利用 (第 39  
回大会：東水大)

「沿岸域の多面的利用とその性格」  
増田洋(北大)

「沿岸漁場における海面利用調整に  
ついて－相模湾を事例として－」 山  
下正貴(地域開発研究所)

「海洋レクリエーション利用－マリ  
ーナ経営の現状と今後の課題－」 乾  
政秀(水土舎)

「遊漁船業経営の実態と沿岸域利用」  
宮澤晴彦(東水大)

「都市近郊沿岸域における漁業的  
海面利用の位置付け」 馬場治(東水大)

コーディネーター：小野征一郎(東水大)

1991 年 企業的漁業経営の存続条件

一個別経営における先端部分の動向  
と展望－(第38回大会：三重大)  
「稚内に於ける沖合底曳網漁業の経営」 濱崎旨男(稚内機船漁協)  
「かつお・まぐろ漁業の経営環境対応」 岩崎洋右(三重近カツ協)  
「以西底曳網漁業」 片岡千賀之(鹿児島大)

「大中型まき網漁業経営の存続条件」  
大海原宏(東水大)  
コーディネーター：廣吉勝治(東水大)

1990年 日本漁業の国際化－生産構造へのインパクト－(第37回大会：東水大)  
「水産物の需要構造－脱資源型加工産地と流通在庫基地の発展－」 秋谷重男(埼大)  
「中小漁業経営の当面する問題とその対応」 服部 昭(八戸大)  
「漁業労働力の需給構造－船内生産過程からみた労働力需給－」 三輪千年(海上労研)  
「国際化への政策的対応－遠洋漁業に焦点を絞って－」 佐竹五六(海外協力財団)  
コーディネーター：大海原宏(東水大)

1989年 日本漁業の国際化と流通・消費構造の変化－円高問題を中心に－(第36回大会：長崎大)  
「日本漁業の国際化－問題の所在－」 小野征一郎(東水大)  
「円高の水産物需給構造への影響」

多屋勝雄(東海水研)  
「水産物貿易構造の現状と展望」 廣吉勝治(東水大)  
「円高と水産物流通変化－西日本産地市場を中心に－」 濱田英嗣(長崎大)  
コーディネーター：小野征一郎(東水大)

1988年 『資源管理型漁業』の現代的意義 (第35回大会：東水大)  
「資源管理型漁業」の論理とタイプ」 長谷川彰(東水大)  
「沿岸漁場の過密競争的利用と資源管理型漁業」 平沢豊(東水大)  
「資源管理型漁業における漁協の役割」 山本辰義(漁協経営センター)  
「沿岸漁業政策の推移と資源管理型漁業」 増田洋(北大)  
コーディネーター：加瀬和俊(東水大)

1987年 200海里体制下の漁業再編－南太平洋、西日本漁業を中心として－(第34回大会：東京農大)  
「韓国漁業の展望とその問題」 山本忠(日本大)  
「かつお・まぐろ漁業の問題点と将来展望」 藤波徳雄(農水省顧問)  
「200海里時代における南方トロール漁業の対応」 中井 昭(東水大)  
コーディネーター：堀口健治(東京農大)  
1986年 200海里体制下の漁業再編(第33回大会：北大)  
「200海里体制化以降の国際漁業関

係の変容」 長谷川彰(東水大)

「新海洋法体制下における遠洋漁業  
資本の対応」 岩崎寿男(日ト協)

「200 海里体制下における沖合・沿岸  
漁業の再編」 増田洋(北大)

「水産物貿易の構造と問題点」 堀口  
健治(東京農大)

#### 1985 年 現代の漁協の性格と機能

(第 32 回大会：日大)

「戦後漁協の展開過程」 秋山博一

「経営危機下の中小漁業の現状と役  
割」 廣吉勝治(水大校)

「現代の漁協運動の目的と課題」 島  
秀典(水大校)

「漁業協同組合と水産政策」 赤井雄  
次(魚価安定基金)

司会：米田一二三(水産経営技研)、  
榎 彰徳(近畿大)

#### 1984 年 現代の漁協の性格と機能

(第 31 回大会：近畿大)

「沿岸漁家と地区漁協をめぐる現代  
的問題」 倉田亨(近畿大)

「沿海地区漁協の性格と漁家経営」  
加瀬和俊(東水大)

「現代漁協の現状と問題点－北海道  
日本海沿岸漁協を事例として－」

池田 均(北海道庁)

司会：鈴木 旭(北大)、米田一二三  
(水産経営技研)

#### 1983 年 漁業制度改革の現代的意義

(第 30 回大会：東水大)

「戦後漁業権制度の性格と機能」 鈴  
木旭(北大)

「漁業制度における協同の位置づけ  
の変化について」 八木庸夫(鹿児島  
大)

「漁業制度改革における資源対応と  
その理論」 長谷川彰(東水大)

司会：高山隆三(慶応大)、倉田亨(近  
畿大)

#### 1982 年 漁場利用の経済的諸問題

(第 29 回大会：東水大)

「漁場利用の経済的諸問題－分析基  
軸－」 高山隆三(慶応大)

「沿岸域における漁場利用の構造」  
米田一二三(水産経営技研)

「日本養殖業の諸問題」 浦城晋一  
(三重大)

「漁場利用の地代論的アプローチ」  
堀口健治(東京農大)

司会：小野征一郎(東水大)、廣吉  
勝治(水大校)

学会短信

No.83

1998.1.18

学会事務局

〒108 東京都港区港南 4-5-7

東京水産大学内

TEL：03-5463-0564